

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人 英生会 英生会グループホームゆめみの	評価実施年月日	平成19年5月8日
評価実施構成員氏名	石井文将・中野由美・野呂富志江・野崎由恵・山田あゆみ・千田千百合・山崎香織・中川奈緒美・桐生めぐみ		
記録者氏名	石井 文将	記録年月日	平成19年6月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者の視点に立った事業所独自の理念を掲げ、家族や地域にも開示している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は常に理念が掲載された名札を携帯し、理念に沿ってカンファレンスやケアを行っている。カンファレンスは毎日行っている。入居者の突然の希望(買い物、散歩等)にも対応し、個別ケアを心掛けている		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所パンフレットや広報に記載している。事業所内の見やすい所に掲示し、家族にも説明している。毎月、家族へ手紙(写真付き)を送っている。2ヶ月に1度「ゆめみの新聞」を発行し、手紙と共に送付している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	事業所で採れた野菜を入居者と配ったり、回覧板をまわしたり、道端で出会った時には、自然に挨拶を交わしたりしている。散歩等に行った際に、出会った人と気軽に挨拶を交わしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の催し物(しめ縄作り・盆踊り・花壇作り等)に参加している。また、事業所でもお祭りや収穫祭、文化祭等を開催し、地域の方の参加を呼び掛けている。今年も夏祭りの開催を計画している。地域の催し物にも参加して交流をしている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	お祭りや収穫祭の場を利用し、介護相談の場を設けている。広報には認知症について連載し、家族や地域に発信している。研修に積極的に参加している。これからも積極的に研修参加を通じて、地域高齢者の暮らしに役立つことがないか、確認し合いたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全職員で行い、前回の評価結果を検討し、サービスの質の向上や改善に向けて取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では、入居状況の報告と事故報告、行事計画などについて報告し、そこでの意見を取り入れサービスの向上に活かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>活動内容など、お互い交換している。電話連絡なども取り合っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>詰所会議(ユニット会議)等を通じて学んでいる。必要と思われる場合には、助言等を行っている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待はない。身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を行っている。 以前、夜勤は16時間勤務であったが、4月より10時間(休憩2時間・実働8時間)に変更し、職員のストレス軽減を図っている。身体拘束は勿論の事、言葉の抑制にも着目し、ケアの中で使用していないかを、身体拘束廃止委員会を中心に、スタッフ間でも確認し合っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前に本人・家族には必ず1度見学に来てもらうようにしている。理解・納得の上で契約して頂いている。利用契約書・重要事項説明書を十分に読んで頂き、口頭での説明もしている。各2部作成し、契約後、家族に各1部、事業所に各1部と保管している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員は、自然に入居者と話す機会を作り、不満なども1対1や、場所を変えて話すなど配慮している。家族にも相談し、本人に合った対応策を検討している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時には近況報告を行っている。毎月、担当職員による個別新聞を家族宛に発行し、様子を知らせている。 お小遣い帳を作成し、預かり証にサインして頂き、領収書は家族にお渡ししている。行事等にも家族に参加して頂き、日常生活の様子などを見て頂くようにしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族にアンケートに協力して頂いたり、面会時に何でも言って頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。苦情受付窓口を設けており、苦情があった際には、速やかに改善へ取り組み、報告書に作成を行い、記録している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	詰所会議・ユニット会議にて全体で意見を言える場を設けている。その都度、管理者に意見を言える環境である。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等で、人員が必要とされる場合等、柔軟に職員配置を増やして対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者、担当者が変わった場合は、家族や入居者へ報告・挨拶し、情報の引継ぎをしっかりと行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>順番に外部の研修を受けられるように、また、研修を受けた職員が研修報告を行い、他職員に研修の学びを伝える機会を設けている。</p> <p>法人内でも、市民が参加出来る講習会を開催するなど、トレーニングの機会が設けられている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は、同業者と交流を深めるため、交流会等に参加している。</p> <p>法人で開催した講習会や行事等の際には、地域の同業者に連絡し、参加を呼び掛けたり、招待している。また、招かれた際には、積極的に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>以前、夜勤は実働16時間であったが、準夜/深夜と実働各8時間に変更し、ストレスの軽減を図っている。</p> <p>勤務状況等についてのアンケートを取り、職員一人一人の思いの汲取りをしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々に期間を決めての目標設定を行い、目標に向けて向上心を持ち働けるよう努めている。</p> <p>1週間毎にユニットでの入居者に対するケアの方針を確認している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居契約前に見学して頂き、オリエンテーション等を行い、困っている事、不安なこと、求めている事等を本人自身から聴く機会を作っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族にはパンフレットの配布を行い、見学時や面会時に不安な事、求めている事等を聞くようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族と面談を行い、在宅診療・訪問歯科・訪問看護との連携や床屋利用の説明を行っている。入居後、速やかに本人や家族の希望を元に初期計画を作成している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたり、入居して間もない時期は、いつでも一時帰宅(外泊)出来るように家族と対応を検討し連携を取っている。新規入居者へは特にコミュニケーションを多くとり、家族からの情報を取り入れアセスメントし初期計画に反映出来るように関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する、介護されるという意識を持たず、入居者と職員がお互いに協働しながら、暮らしの中で共に支え合える関係作りに努めている。時には入居者にとっての孫的な存在になり、支え合える関係づくりをしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事等の参加を含め、家族に協力して頂く機会を作り、家族と職員が共に入居者を支えられる環境作りを図っている。入居者によっては、担当者中心に家族と密に連絡を取り合い、外出等で入居者が家に帰る様にプランにも入れている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族の思いや状況を確認しながら、外出や外泊等と家族と過ごす時間を勧めたり、行事等の参加を家族に促したり、より良い関係が築けるように努めている。家族用にあてた物入れを作っており、伝えたい事等あった時には、そこに伝達事項を書き込み、スタッフ全員が周知出来る事と、速やかに家族へ連絡出来る様になっている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者個々に外出の機会を設け、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事やおやつの際は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、日々の役割活動等を通して入居者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。本人の性格や状態を把握したうえで、見守りや介入などの支援を行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した方や家族に対しても、手紙などを利用して遊びに来て頂いたり、行事等にも参加して頂けるように働き掛けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画の中に本人の希望を取り入れ目標にしている。困難な場合は、家族から情報を得て、ケアマネージャー・担当者を交えたカンファレンスを行い検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族による生活歴の情報表を作って頂いている。馴染みの家具や飾りを居室に置いて生活環境を整え、介護計画立案時にも重要視している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	コミサークルチャートにより、1日の過ごし方を出し、出来るだけそれに沿った過ごし方から始めている。身体状態は看護師に診てもらいアドバイスを受けている。職員間では申し送り、伝達にて現状を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時、本人や家族から思いを聞き、職員、ケアマネージャー、看護師で話し合いをしている。また、医師やPTにも必要に応じて相談しアドバイスを受け、介護計画作成に活かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々変化する状態、新しい問題点、クリア出来た課題等、カンファレンスを行い介護計画を見直している。退院(体調変化)時には再度作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを活用し、日々の体調(バイタル)面、精神面、生活面を記入し、職員は必ず目を通して共有している。個人ノートを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出・外泊は自由であり、面会時間等も決めておらず、出入りは自由であり、本人、家族の要望に応じるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察や消防には必要に応じ協力が得られる様、情報提供している。市民も参加出来る作品展(文化祭)を開催し、地域住民にも開放している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	在宅事業所、併設事業所のケアマネジャーと常に連携を取っている。本人の体調や希望により、訪問の床屋も利用してもらっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人主体が病院であり、定期的に在宅診療にきてもらっている。状態に応じ、他の医療機関の訪問診療も受けている。通院は基本的に家族同行の受診としているが、家族対応が難しい場合は職員が代行するようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人理事長(院長)がシルビアホームでの研修を受け、在宅診療時に日常の入居者の姿を通じて適切な指示、助言をもらっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護ステーションとの契約に基づき、医療面での助言・相談を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には必ず職員が付き添い、医療機関に本人の状態等を提供し、面会(見舞い)にいくようにしている。家族とも情報交換しながら、早期退院出来るように連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでの看取り、医療機関での終末など、家族の意見を聞き相談し、職員が認識してケアを行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	月2回の在宅診療等で医師と職員が連携を取り、急変時に速やかな対応が出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	医療機関への入院となった場合なども、生活環境、支援内容、注意点など情報提供し、職員が面会(見舞い)に行くなどしてリロケーションダメージを最小限にするよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者を名前で呼んでいる。敬語を使い、入居者の誇り(尊厳)を傷付けないような声掛けをしている。排泄の声掛けや介助も、本人が傷付かない様に、周囲に目立たず、さりげない声掛けの対応をしている。記録類の外部持ち出しは原則禁止としている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	表現出来る入居者には問い掛けし、出来ない方には表情を読み取りながら促している。拒否が見られた時は、その意志を尊重し受け入れ、他の選択肢を促したり、無理強いはいしない。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、その時々で本人の意思や気持ちを尊重し、出来るだけ個別支援を行うよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本的に入居者本人の意思で決めており、職員は見守りや介助が必要な場合に手伝う。自己決定が出来ない方には、職員と一緒に考え、支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	週2回は入居者と共に献立を考え、希望によっては外食や出前を取ったりしている。常に職員と入居者が共に食事を摂り、食事準備・調理・片付けなど出来る事を一緒に行っている。個別支援を重視して取り組んでいる。外出・外食は、担当者中心に少人数で行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人の好みに合わせた飲料水・菓子類など種類を多く用意し、選択出来るようにしている。現在、喫煙される方はいない。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導を行っている。個々の排泄習慣や状況により、使用する排泄用品(尿取りパット等)を使い分けている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>毎日、入浴に対応している。時間帯は本人の意思を尊重して、入浴して頂いている。お湯の温度・量も本人の希望や好みに合わせている。同一敷地内の事業所の風呂を希望があれば活用している。銭湯気分を味わって頂くことにより、気分転換にもなっている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>不眠時の状態を把握し、日中の傾眠時間や活動時間を考え、部屋の温度・湿度にも配慮し、暖房や加湿の調整を行い、安眠出来るように努めている。各居室に加湿器を置き、乾燥を防ぐ様、配慮している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>本人の興味のある事を見極め、家族からの情報も聞き、一人ひとりの力を発揮出来る様な役割を支援している。 (外出、買い物、除雪、畑仕事、家事)</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>個人でお金を持っていたい方は、家族の協力を得て所持してもらっている。また、家族よりお金を預かり、事業所にて管理している方でも、買い物時に自分で支払ってもらえる様に手渡しなどして支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の気分や体調、天候を考え、散歩や買い物、ドライブなど個々の希望に沿えるよう対応している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望を聞き、希望に沿える様に予定を組んでいる。日帰り温泉などの外出行事では、家族にも声を掛け、参加出来る家族には一緒に行く機会を作っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な入居者には、好きな時に電話を掛けれるようにしている。毎年、年賀状を出すための支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を定めておらず、仕事帰りなど家族の都合の良い時間帯に気軽に訪問して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。 身体拘束廃止委員会を中心に、常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を中心に、言葉の抑制にも取り組んでいる。 マニュアルを作成し、各自チェック出来るようにしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関には鍵をかけず、自由に出入り出来るようにし、職員は見守り、所在確認を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	コミュニケーションを多く取る為にも職員は記録等の記入は入居者と同じ空間で行い、さりげなく入居者の状況把握に努めている。 居室にいたいか、フロア(居間)にいたいかは、本人の意思を尊重している。 居室での安否は、さりげなく用事や食事作り、散歩等に誘う等し、確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に合わせ、危険と思われる物は管理し、使用する際には、職員が付き添い一緒に使用する等の配慮をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常に状態把握に努め、カンファレンスを通して事故防止に取り組んでいる。万が一、事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故対策委員会を中心に予防策等を検討して、検討結果は職員が常時閲覧出来るようにしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。 心肺蘇生法等の消防の研修にも参加出来るよう努めている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練・消火器取り扱い等を訓練している。自主的な避難誘導訓練も行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その人らしい生活の場を支援するにあたり、リスクが高くなる場合もあるが、残存機能を活かし、抑制感のない生活が出来る様、家族と話し合い協力している。 常に威圧感のない見守りや声掛けを大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状態を把握したうえで、体調等の変化が見られた時には、看護師や管理者に報告し、指示を仰ぐとともに、職員間での情報共有を行い対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期薬は勿論、臨時薬に対しても医師や看護師の指示を受け対応している。服薬時はきちんと服薬出来ているか確認している。薬が変更になった際には、状態観察を強化している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の状態に合わせ、センナ茶やオリゴ糖をはじめ、繊維質の多い食材や牛乳等の乳製品を取り入れている。散歩や体操を通じて運動する機会を作っている。一回の摂取量が少ない方には、少しずつ回数を増やす等の対応をしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	就寝前には、義歯を回収し洗浄・消毒を行っている。口腔内の清潔チェックも行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は1日1400kcalの献立を立てバランスを保っている。糖尿病の方には個々に合ったカロリー制限のもと調理している。お茶を好まない方には、好みの飲料水を提供するなどし、常に水分補給を心掛けている。食事摂取量のチェックを行っている。一回の摂取量が少ない方には、高カロリーの物を提供し対応している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会を設置し、マニュアルを作成して、予防・対策に努めている。入居者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。事業所内ではペーパータオルを使用している。感染対策委員会で掃除チェックリストを作成し、こまめに清潔を保つ様、努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎食の検食と取っている。感染対策委員会より台所や食器類の消毒に対し取り決めがあり、毎日行っている。食材は随時買い物に行ったり、宅配も利用しながら新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	明るい雰囲気になるように、玄関先にプランターを置いたり、ガーデニングにより季節感を演出している。 ベンチを置き、気軽に休める場を作っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	誰もが通る場所に、その季節の花や飾りを置き、季節感を意識的に取り入れている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	廊下端には椅子とテーブル、玄関ホールには簡易ソファを置き、自由に使用できる空間を作っている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	タンス等の家具以外にも、入居者の好みや馴染みの物など生活スタイルに合わせ、入居時等に持ち込んで頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	その時の天候や入居者からの訴え時、温度調節を行い、各居室に加湿器を設置し、湿度調整を行っている。 入居者の発汗状況に注意している。 自分で換気が難しい方には、1日2回(午前・午後)と換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しており、転倒等の事故予防と、自立への配慮をしている。		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	転倒の危険がある方には、居室内に立ち上がりの支えとなる椅子を設置するなど、状況に合わせた環境整備に努めている。		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	庭に花を植えたり、畑を作ったり、入居者がいつでも楽しみを持って活動出来る様な環境を作っている。		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> 大いに増えている  <input type="radio"/> 少しずつ増えている  <input type="radio"/> あまり増えていない  <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が  職員の数 / 3くらいが  職員の数 / 3くらいが  ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が  利用者の数 / 3くらいが  利用者の数 / 3くらいが  ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が  家族等の数 / 3くらいが  家族等の数 / 3くらいが  ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)